

Living the Lotus 10

Buddhism in Everyday Life

2024
VOL. 229



9月8日から3日間、台湾幹部練成会を開催
台北・台南教会の会員が教えを語り合い、さらなる実践を決意

Living the Lotus Vol. 229 (October 2024)

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537
東京都杉並区和田2-7-1 普門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124 Fax: 03-5341-1224
E-mail: iiving.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp
編集責任者: 赤川 恵一
編集チーフ: 三川 紗知
校閲者: 小坂 和正、菊池 克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙伎脇祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生き、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life (法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。



心を耕し、仏に戻る

庭野日鑛
立正佼成会会長

仏性の自覚を深める

釈尊^{しゃくそん}は、私たちが心に信仰^{たね ま}の種を播き、怠^{おこた}ることなく耕作^{こうさく}をつづけると、「あらゆる苦悩^{くのう}から解^とき放^{はな}たれる」とお説きくださいました。それは、当時、釈尊の目の前にいた人たちだけではなくて、いまを生きる私たちの胸にも、力強いメッセージとして響^{ひび}くお言葉です。私たちは、この堂々たるお言葉を素直^{すなお}に受けとめて仏道を歩めばいいのです。

ただ、先月お話ししたように「たった一回でも心^{たがや}を耕せば、二度と苦しみ悩むことはない」と受けとめるのは、少し虫がよすぎるかもしれません。日々、心の土壌^{どじょう}をやわらかく耕すような言葉や行ない——菩薩行^{ぼさつぎょう}——を繰り返すなかで、そのつど自分のなかの仏、すなわち仏性^{ぶつしょう}を掘り起こすことが、苦悩の少ない人生につながるのだと思います。

ある一瞬、仏と同じ性質をもつ自他の尊厳^{そんげん}に気づいたとしても、また疑問がわく。忘れてしまう。しかし、困っている人を見て「なんとかしたい」と思いやるような機会があると、仏性そのものの自己であることを思いだして、その自覚が深まる。そうしたことの繰り返しが大切なのです。

今月、入寂会^{にゅうじやくえ}を迎える開祖さまもまた、一人ひとりが自他の仏性に目覚めることの大切さを繰り返し説いています。私たちがよりどころとする経典^{きょうてん}の一つである法華経^{ほけきょう}を「人間が自己の仏性に目覚めることの大切さを説き示した経典」

といい、仏性という「良心や真心^{まごころ}、善意」など、だれもがもっている「心の宝」を前面に押し出していけば、いつも明るい心で安らかな生活ができるということです。

ところが、心を耕すことをほんの少し忘れてだけで、私たちの心の土壌は固く^し締め、柔軟性^{じゅうなんせい}を失って、自他の仏性が見えなくなります。古い文献^{ぶんげん}に「わが身に仏性ありと知らぬものを凡夫とは申すなり」とあるとおり、ほんとうはいつでも仏に戻れるはずなのに、そのことを忘れて^{ほんのう}煩惱まみれの自分を真の自己だと思いこんでしまうのです。

慈悲心が仏性を掘り起こす

では、どうすれば仏性そのものである本来の自分に戻れるのかといえば、かつて開祖さまが述べた「仏性」とは「慈悲心^{じひしん}のこと」という言葉がヒントになります。先述^{せんじゆつ}したように、私たちが慈悲心を起こしたり、それを実践したりするとき、そのたびごとに私たちの仏性は掘り起こされます。たとえば、ふだんは毛嫌^{けきら}いする蜘蛛^{くも}に自分と同じ命の輝きを見て殺生^{せつしょう}を思いとどまるとしたら、それは慈悲心によって蜘蛛の仏性^{おが}を拝むことができ、しかも蜘蛛をとおして自身の仏性が掘り起こされて自覚^{うなが}を促されたということです。

しかし、そうして少しずつ仏性の自覚が深まるなかでも、不都合なことがあると、私たちはつい愚痴^{ぐち}を吐いたり、怒ったり、人に心ない仕打ちをしたりします。また、そのような思いやりのない自分と、仏性の自覚に立った自分との隔^{へだ}たりを恥^はずかしく思って、悩む人がいるかもしれません。

それでも、「仏性の自覚なんて、私には無理だ」などと卑屈^{ひくつ}になる必要はありません。昔の高僧^{たいご}でさえ「大悟十八遍、小悟は数を計らず」というくらい、気づきと反省を繰り返しながら、つねに「仏のように生きたい」と心を耕しつづけられたのですから、むしろ恥^はずかしいと感じて気づいたその思いが、成長や向上の足がかりになるのです。そして、何より大事なことは、「一切衆生悉有^{いっさいしゆじょうしつう}仏性」ということをかみしめられる人間として生かされている有り難^あさに感謝し、やさしさと思いやりを忘れないことだと思えます。

開祖さまが、「人さまを喜ばせるような行為を積み重ねていくうちに、私たちに授^{さず}かった大慈悲心、『仏性』というものは、どんどん輝きを増し、『仏性』と『仏性』が響き合う、仏の世界」が築かれるというとおり、本来みな、あらゆる苦悩から解き放たれる存在だと私は信じているのです。



(『佼成』2024年10月号)

家庭教育をとおして親子が共に育ち、成長することを願って

スリランカ教会 クスマーワティ・ポディメニケ

立正佼成会には、いつごろ、どのようなきっかけで入会されたのですか？

私は長年、公立学校で教師をしていたのですが、当時、私の勤務する仏教系の学校には仏像が安置されており、私は仏さまへのお給仕を日課としていました。その日は土曜日でしたが、自宅が近いこともあり、いつものようにお給仕をするために学校に行くと家庭教育のセミナーが開催されていて、大勢の人々が集まっていました。お給仕を終えたあと、セミナーに参加した私はいつしかその講演に引きつけられ、今まで味わったことのない新鮮な感動を覚えました。

特にセミナーの中で講師さんは家庭の中で親が率先して「おはよう」のあいさつ、「ありがとう」の感謝の言葉を使うことがどんなに大切であるかを強調していました。それは家庭ではごく当たり前のように行なわれていると思うでしょう。しかし言葉を知っていても、親のほうからいざ実践するとなるとなかなかできないことです。その後、私は家庭教育セミナーを主催した団体が日本の立正佼成会であることを知りました。そして私もこの素晴らしい家庭教育を学び、実践してみたいと思うようになり、後日、コロンボにあるスリランカ教会を訪ね、2018年9月9日に入会させていただいたのです。

その後、家庭教育の普及にずいぶん努力されたそうですね。

私自身がとても感動したので、学校の先生をはじめ生徒たちの両親に家庭教育の重要性を伝えたいという願いから、それまで赴任したことのある小・中学校など数多くの学校で家庭教育のセミナーを開催してきました。その結果、大勢の方々に家庭教育はもちろん、佼成会の存在や法華經の教えを理解してもらうことができました。

また、スリランカには毎月一度、仏教に由来し満月の日に寺院に参拝する「ポヤデー」という大切な祝日があります。スリランカ教会でもこの日「ポヤデーの式典」として、ご命日式典のようにご供養後に会員さんの説法や鈴木啓修教会長さんのご講話などが行なわれています。私はこの「ポヤ



スリランカ教会で説法をするポディメニケさん

デーの式典」に家庭教育セミナーに参加してくださった方々をお誘いして、これまで15人の方をお導きさせていただきました。また微力ではありますが、会員の皆さんの協力を得ながら現在は講師として家庭教育の重要性をお伝えさせていただけるようになりました。

家庭教育を学んで最も素晴らしいと思ったことを教えてください。

家庭教育では「親が変われば子どもが変わる」という理念のもと、まず親である「自分が変わることを」教えてください。私たちは、とすれば自分が変わることなく、相手を変えようとしがちです。そのため家庭においても「夫が変わってほしい」とか「子どもを何とか変えたい」と思って

しまいます。でも、家庭教育では子どもの姿、言動に学び、自分が変わっていくことを大事にしています。そして、家庭教育をとおして親子が共に育ち、共に成長できることが最も素晴らしいことだと思っています。

現在、教会ではお役はされているのですか？また、仕事は続けているのですか？

スリランカ教会では各地域に家庭拠点があり、会員さんの自宅をご供養や法座を行なう場所にしており、現在、スリランカ全体で82拠点あります。私は教会があるコロンボからバスで約3時間離れているケーガッラ県の家庭拠点長のお役を頂いています。日本で言えば、地区の主任さんのようなお役だと思います。また、仕事は2年前に公立学校を定年退職して、現在はインターナショナル・スクールで教師をしています。

昨年、佼成会の教師資格を授与されましたが、その時から何か気持ちの変化はありましたか？

教師授与式のため私は初めて立正佼成会の根本道場である大聖堂を参拝しました。もともと私は上座部仏教を信仰していたので、いろいろな国々の有名寺院にも参拝した経験があったのですが、その時とは大きく違った気持ちに



自宅でご主人と

になりました。大聖堂の荘厳な建物、柔和な仏さまのお顔を拝ませてもらったとき、言葉ではうまく表現できない感動が湧き起り、なぜか涙があふれてきました。《生まれてきて本当によかった。教員をしていたことで佼成会とご縁を結び、法華経と出遇い、大聖堂にもお参りすることができた》。そんなさまざまな思いが駆け巡り、感謝で胸がいっぱいになったのです。

また、教師授与式には大勢の海外の会員さんも参加していましたが、私たち会員が佼成会の教えを周囲の人々にお伝えしていけば、必ず戦争や紛争のない平和な世界が実現できると思いました。そして、教師拝受を機にこれからも積極的に仏さまの教えを学び、一人でも多くの人にこの教えを伝えていきたいと、ご本仏さまに新たな精進をお誓いさせていただきました。

法華経の中で心の支えにしている教えはありますか？

法華経の法師品に五種法師が説かれています。法華経を広めていくために法師の自覚に立ち、受持・読・誦・解



スリランカ教会で行なわれたご本尊拝受式のあと、鈴木啓修教会長(右)と

説・書写の五つの行を心に留めて、日々修行させていただいています。

最後に今、願っていることや今後の目標を聞かせてください。

私はまだまだ教師として未熟ですので、今まで以上に佼成会の教えや法華経を学んでいきたいと願っています。恥ずかしいことに、これまで私は「ありがとう」という言葉をあまり使うことがなかったんですね。でも、今は朝起きると「きょうも生かしていただき、ありがとうございます」と、仏さまや大自然の恩恵に感謝できるようになり、身近な家族や周囲の人に対しても自然に「ありがとう」と言える自分になることが

できました。そのように少しずつ教えを学び、実践して成長できたのも佼成会の教えのお陰さまで。ですから今後ももっともっと勉強して、一人でも多くの方に仏さまの教えや家庭教育の大切さを伝えていきたいと思っています。うれしいことに11月には私の勤めているインターナショナル・スクールで初めて家庭教育セミナーを開催する予定です。当日、大勢の方が会場に来てくれることを祈りつつ今からとても楽しみにしています。

日本は世界で最も平和で豊かな仏教国です。その日本人の精神が世界の国々に伝わりますように。



教師授与式の参加者と(左からポディメニケさん、赤川恵一国際伝道部長、同じくスリランカ教会の拝受者、当日のお役者)



大聖堂で行なわれた教師授与式のあと、海外教会の拝受者と(前列右から2人目)

まんが立正佼成会入門

教団の行事

御親教

新年の一月七日、大聖堂で開かれる式典です。この日は会長先生が年頭にあたって全国の会員に、立正佼成会が一年間行なっていく取り組みのねらいや年次目標を示します。そして、会員一人ひとりの今年一年のところがまえを説きます。

会長先生のご指導は、衛星放送によって全国各教会で放映されます。

会員たちは大聖堂や教会に集い、会長先生のご指導をもとに、今年一年の決意を新たにします。



豆知識

一月七日は「七日正月」といって、この日を正月の終わりと考え、生活をふだん通りに切りかえる日とされている。また、セリやナズナなど七種類の野菜が入った「七草粥」を食べて、一年間の健康を祈る日でもある。

※私的使用を除き、無断で複製・転載をしないでください。



『まんが立正佼成会入門』は、佼成ショップにて好評発売中です。
<https://www.koseishop.com/>

寒中読誦修行

大寒の入り（一月二十日）から節分（二月三日）までの間、大聖堂をはじめ全国各地の教会道場などに会員が参集し、法華三部経の読誦修行を行ないます。大聖堂では十五日間、朝六時から行ないます。一年間でもっとも寒い時に朝早く起きて行くの

は、とてもつらいことです。しかし、それができた時の喜びや充実感、自分にいままで以上のパワーをつけてくれるはず。それに、一生懸命お経をあげることで、すがすがしい気分を感じることができます。



豆知識

節分は「季節の分かれ目」をちぢめた言葉。この日は各家庭で、「福は内、鬼は外」などと唱えながら豆をまいて悪い心を追いはらう習慣がある。



仏さまに生かされて

道を歩むべく生きる

立正佼成会開祖 庭野日敬



法華経には、私たちが仏さまに生かされていることが随所に説かれています。

「譬諭品」の、「今此の三界は 皆是れ我が有なり 其の中の衆生は 悉く是れ吾が子なり 而も今此の処は 諸の患難多し 唯我一人のみ 能く救護を為す」というお言葉もそうです。

仏さまは、私たちすべての人間を「みんなわが子である」とおっしゃるのです。これは、私たちは「仏さまに生かされて生きている」ということです。

そして「諸の患難多し 唯我一人のみ 能く救護を為す」というのは、この世には困難な問題が山ほどあるけれども、仏さまは常に私たちを護ってくださる、ということです。

また、「如来寿量品」では、「常に法を説いて 無数億の衆生を教化して 仏道に入らしむ」と説かれています。

これも、私たちが「仏道に入ろう」と発心するのは、仏さまが教化してくださったお陰さまで、みんなが仏道に入るように生まれてきて、生かされているというわけです。

そして「如来寿量品」の最後には、「毎に自ら是の念を作す 何を以てか衆生をして 無上道に入り 速かに仏身を成就することを得せしめんと」とあって、仏さまが私たちを速く仏にしたいと常に念じてくださっている、と説かれています。

こういうお経文を読ませていただくと、私たちが仏さまに生かされていることがはっきりとわかります。こうして、仏さまに生かされていることが明快に示されているのですから、私たちは素直に、まっしぐらに仏道を歩めばいいわけです。

庭野日敬平成法話集 1 『菩提の萌を発さしむ』 P.60-61

Director's Column

健康診断からの学び

国際伝道部長

赤川恵一

みなさん、こんにちは。10月に入り、日本もいよいよ収穫の秋を迎えております。

さて、今月は「仏性の自覚」についてご法話をいただきました。みなさんは、どんな時にご自身の仏性を自覚されているのでしょうか。私は、最近の体験からこのテーマを語ってみたいと思います。

私は健康管理のために毎年人間ドックを受診しております。今回の受診後「腎臓の再検査が必要」との通知が届き、そこには「現状を放っておくと、最悪の場合腎臓移植や血液透析療法が必要になる」と書かれていました。ショックを受けた私はすぐに再検査を受け、検査結果を担当医師に聞きに行きました。医師からの指導は、「幸いなことに治療を始めなければならない数値ではありませんが、塩分を控えたバランスの良い食生活、適宜な有酸素運動を続けることをお勧めします。帰りに食事カウンセラーのアドバイスを受けてください」というものでした。

「老廃物の排泄・体内塩分濃度の調節・身体を弱アルカリ性に保持」という腎臓の働きのどれひとつをとってみても、そこでは毎瞬奇跡のような生命活動が行なわれているとしか思えません。この再検査を機に「生命の意思、すなわち仏性に素直になって生きていこう」と誓った私でした。

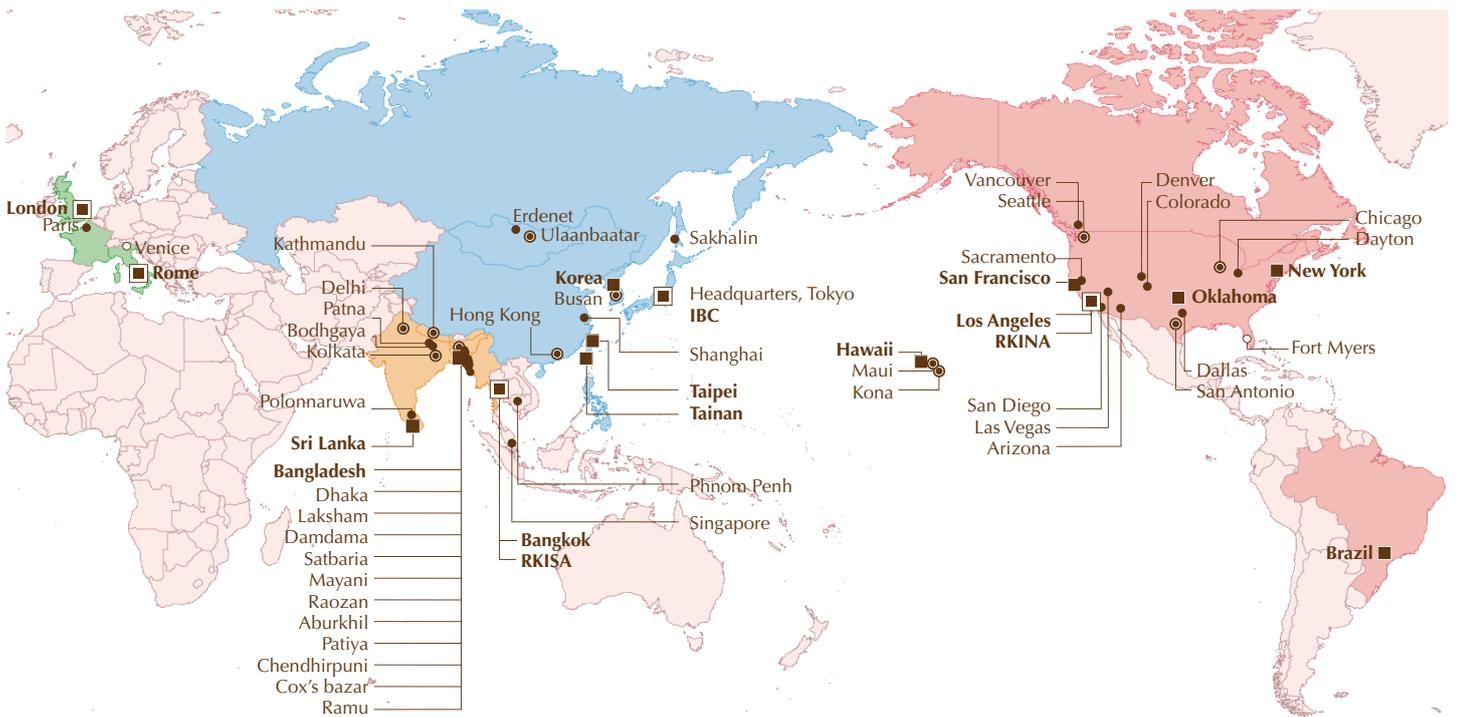
そして、今月のご法話で教えていただいているように、人さまに喜んでいただけるような行為を積み重ね、我が身に授かった仏性をさらに輝かせて参りたいと思います。今月も、やさしさと思いやりの心で精進させていただきます。



本部を訪れた海外会員を国際伝道部の事務所に迎えて。右上:ニューヨーク教会の会員(後列中央)を歓迎する赤川部長と国際伝道部スタッフ、左下:ウランバートル支部の会員と懇談する赤川部長。



🌸 *A Global Buddhist Movement* 🌸



Information about
local Dharma centers



facebook



X

